

## 令和4年度 第1回奈良市移動等円滑化促進協議会会議録

開催日時	令和4年7月21日（木）午前10時から12時まで		
開催場所	はぐくみセンター8階 中講座室8-1, 8-2		
出席者	委員	三星委員、室崎委員、矢野委員、島田委員、松本委員、江崎委員、元山委員、紀平委員、高橋委員、高松委員(代理)、川嶋委員(代理)、朝山委員(代理)、山野委員(代理)、富永委員(代理)、中村委員、宮井委員、堀川委員、小澤委員、木村委員、梅田委員 【計20人出席】(欠席委員：金野委員、山本委員、西本委員、北浦委員、吉田委員)	
	事務局	都市整備部：大井次長 交通バリアフリー推進課：池部課長、山地課長補佐、藤田主任、西窪主務、吉村主事	
開催形態	公開（傍聴人 1人）	担当課	都市整備部 交通バリアフリー推進課
議題 又は 案件	①令和2年度にいただいたご意見への回答 ②踏切道の整備等に関する今後の方針について ③その他		
決定又は取り纏め事項	令和2年度の書面決議の際などにいただいたご意見に対して、鉄道事業者・道路管理者から回答をいただき、内容について協議した。 大和郡山市内で発生した踏切事故を受け、「奈良市視覚障害者協会」「奈良県視覚障害者の生活を守る会」からいただいた要望に対して、本協議会として今後の方針についてご意見を伺った。		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
<p>1. 開会・あいさつ</p> <p>2. 議題</p> <p>①令和2年度にいただいたご意見への回答</p> <p>【意見】</p> <p>No.1 シームレスな点字ブロックの整備</p> <p>三星会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路の点字ブロックの整備については書いてあるが、建築物の点字ブロックについては書いていない。入り口に人を置き、そこまで目の不自由な方は来てください。入り口からは人が案内します。というのが基本であるが、視覚障害の方からヒアリングをすると奥まで引いて欲しいというのが本音である。この協議会としても点字ブロックを建築内も含めてどこまで引いていくかを議論しないとイケない。</li> <li>・大きい施設が計画される時に交通安全についての警察協議というものがある。バリアフリーについてはそういった協議がないので、点字ブロックの接続についても総合的にチェックできる体制を設けていってはどうか。</li> </ul>			

#### 島田委員

- ・民間の施設（例えばコンビニ）と道路を結ぶことは不公平があるという回答があったが、郵便局や銀行等、生活には必需であるようなところも接続できていない。民間公共問わず、接続をするという考え方で進めていただきたい。

#### 室崎副会長

- ・建築物の敷地内と道路の点字ブロックを全て繋げられなくても、敷地のぎりぎりまで来ている点字ブロックがある場所がこの辺りだよというような路上に注意喚起のブロックがあるだけで、それを覚えるとサインにはなるのではないかと思う。
- ・どこまで建築物の中にも引いていくかということについては、シームレスというのを考えていく時に点字ブロックだけでなく、音声案内等を使ってトータルでルートが確保される方法も考えてはどうか。

#### 事務局

- ・建築物については「奈良県住みよい福祉のまちづくり条例」に従って点字ブロック等を設置している。今回の協議会でいただいたご意見を奈良県の担当課にも情報共有し、建築物内の点字ブロックや、施設整備の際に道路の点字ブロックとの接続について考慮できないかを協議していきたい。

## No. 2 鉄道駅の無人化に対する危惧

#### 島田委員

- ・障害者が鉄道駅を利用するときには駅係員に援助をお願いする仕組みになっているが、以前に比べて時間を待たされている。駅係員が到着されるまで待って、そこから次の電車に乗るという形になるので、ひどい時は電車を2～3本見送ることになる。

#### 元山委員

- ・駅員が不在のところでの事故は、今はなくてもいつ発生してもおかしくない状況があると思う。どの業界も人手不足で人材を確保するのは難しいと思うが、例えば、民間の方を駅整備員や乗客整備員に利用されているところも見かけたことがある。訓練にかかる費用が必要であると思うが、駅員を増やすよりは可能性があるのではないか。

#### 川嶋委員（代理）

- ・奈良市に駅員を配置していない駅がいくつかあるが、奈良市と協議させていただき、カフェやコミュニティ施設というようなものを建設していただき、そこの方に駅員が担っている案内等をやっていただいているという事例がある。

#### 高松委員（代理）

- ・今後も路線を継続していくためには、今までと同じ人数をかけてサービスを提供することは難しい。
- ・対象となる駅のインターホン等を整備し、駅員のいる駅とほぼ同等のサービスを提供できるように設備を整えた駅については、巡回対応駅とさせていただいている。
- ・駅員の支援が必要な場合は、事前に何時の電車に乗りたいという話をいただければ、先に対応はさせていただけるので、ご理解いただきたい。

### No. 3 駅ホームドアの設置

#### 島田委員

- ・10万人という乗降客の数字を基準にされると、奈良市内の駅にはホームドアが付かない。この基準だけではなく、利用が多く、近くに障害者の施設がある等を配慮していただき整備を進めていただきたい。

#### 元山委員

- ・10万人に満たない大和西大寺駅や奈良駅のようなところでも事故が発生することはあるかもしれない。基準に合わないから設置できないではなく、どうやったら設置できるのかというような基準にした考え方を進めていかなければ、おそらく地方は設置できないと思う。

#### 川嶋委員（代理）

- ・JRとしては、10万人が一つの基準であると考えている。また、転落の実績も含めると、優先して整備すべきなのがJR西日本では14駅ぐらいあり、整備を進めているところである。そこに奈良市の駅は入っていない。費用や工期の問題もあり、優先する駅ですら着手できていない状況である。
- ・ホームドアはホームに転落しないためとしては一番有効であるが、別の視点で、駅でホームから転落した場合に検知するシステムを検討している。こちらだとホームドアより比較的安価で設置できるのではないかと考えている。

#### 高松委員（代理）

- ・近鉄内でホームドアを付けられているのが大阪阿部野橋駅の特定の番線だけである。
- ・近鉄は相互直通運転をしていたり、特急等、いろんな車両タイプの電車がある。扉位置がバラバラのため、すべての電車に対応できるようなホームドアは技術的に対応できない。社内に研究チームもあり、メーカーと協力しながら検討を続けているところである。

### No. 4 歩道と車道の段差の解消

#### 三星会長

- ・車椅子にとって使いやすい歩道段差は段差がないのが一番良い。視覚障害者にとっては、2cm～5cmの段差がある方が分かりやすい。この両者を同時に満たす、折り合い点をどこにするのかという課題がある。
- ・国や県で定めている2cmを緩やかにして車椅子が上りやすくなるようにするやり方がある。しかし、ベビーカーだとベルトをしっかり締めないと赤ちゃんが飛び出すこともある。
- ・兵庫県や大阪府北部で広がっているのが、段差を平坦にし、歩道の縁端に刻みを入れることにより、視覚障害の方が足の裏の感覚で分かるようにしたものがある。しかし、奈良市が視覚障害の方と神戸市に現場視察に行ったが、視覚障害の方からは適切ではないというご意見があったと聞いている。

#### 島田委員

- ・私も実際に現場を見に行ったが、見た目は線が入っており、すごく分かりやすいように見えるようだが、足の裏で触るとほぼフラットに感じてしまう。10cmくらい大きい切込みでないと感じるができないように思う。
- ・凹凸で感じられるような、車椅子やベビーカーもそれほど支障がないようなものを考えていた

できればありがたい。

### 三星会長

- ・関東の方では、歩車道段差をなくし、縁端部に突起部を設けるため、上に持ち上げた線を貼り付けている例がある。それは視覚障害の方が足で確認すると分かりやすいという声がある。
- ・いろんなパターンがあるが、県によって違うとそれはそれで分かりづらいという声も上がってくるだろう。

## ②踏切道の整備等に関する今後の方針について

### 【意見】

#### 川嶋委員（代理）

- ・踏切内における誘導ブロック等の整備については、線路の中も道路管理者のものなので、基本的に道路管理者でされるという認識をしている。道路管理者が整備を検討する際に協議を行い、鉄道事業者が工事を委託され施工するものと考えている。
- ・踏切内の工事については、基本的に費用は道路管理者の負担であり、責任であるが、はがれやすい材料だとはがれて電車にぶつかる等のことも考えられる。どういったものが良いのか等は協議をさせていただこうと思うが、道路管理者からどうすべきかをご提案いただくものと考えている。
- ・障害物検知装置については、すべての踏切についているわけではない。技術が進み、様々なものがあるが、順次導入していっているところであるのご理解いただきたい。

#### 高松委員（代理）

- ・踏切内における誘導ブロックについては、基本的には道路管理者で設置いただくものという認識でいる。踏切とは道路と鉄道が交錯する部分であり、歩行者の誘導や前後道との接続も含めて基本的には道路管理者で計画いただき実施いただくものと認識している。
- ・大和郡山市の事故は当社の踏切であり、事故についても非常に重く受けとめている。当社としても道路管理者や関係者と前向きに協力しながら進めていきたい。
- ・踏切内の誘導ブロックの技術的な課題が一点あり、当社の踏切がゴム製の舗装をしており、それに接着できる誘導ブロックが必要となってくると感じているところ。

### 三星会長

- ・車椅子の方から出る意見だが、線路の隙間に嵌まることについて改善できないか。

#### 川嶋委員（代理）

- ・隙間を狭くすると、逆に脱線するというリスクもあり、技術的に難しい。道路と直角になっているところはいいが、斜めになっているところは嵌まりやすいという認識はしている。

#### 事務局

- ・鉄道事業者からは、踏切内については道路管理者が検討するものであると考えるが、整備の際は前向きにご協力いただけると回答いただいた。
- ・今後、各踏切について、ワーキンググループの中で検討していきたいと考えおり、その際にはご協力いただきたい。

### 島田委員

- ・大和郡山市で起きた事故について、地元でこういうことがあり、私たち当事者達は非常にショックを受けた。
- ・視覚障害者は常に注意して歩いているが、周りの状況、例えば道の端の溝をちょっと避けようとか、自転車や車をちょっと避けようとする、方向感覚を失ってしまい、自分の立ち位置、状況が分からなくなってしまうということをご理解いただきたい。
- ・踏切の整備と同時に、その周辺の道路整備も一緒をお願いしたい。溝や電柱を避けようとした時に向きが変わって中央に出てしまったり、反対の端の方に行ってしまうたりで事故に繋がってしまうかもしれない。
- ・アイシグナルについて、奈良市内でははぐくみセンターと南都銀行西大寺支店でしか利用できない。これがあると、音を流し続ける必要がなく、必要な時に必要な情報を得ることができ、信号を延長することもできる。

### 朝山委員（代理）

- ・エスコートゾーンの敷設について、現在は東向、県立文化会館前、県庁西の3交差点に整備している。
- ・エスコートゾーンはバリアフリー基本構想の重点整備地区内における主要な生活関連経路上で、視覚障害者の方の安全性を確保することが特に必要であると認められる信号交差点を優先して整備を計画している。
- ・要望のある各交差点についても、駅周辺となるので、今後設置を検討していく。
- ・音響式信号機について、現在県下で254交差点に設置しており、さらに整備を進めている。
- ・その他、交差点に近づくと、ブルーツースを利用し、スマートフォンに“信号が青になりました”等の情報、音や振動で伝える高度化PICSという装置の設置を今年度検討している。
- ・音響式信号は重点整備地区内にある信号機を優先的に整備するほか、警察署等を通じて、視覚障害の方から要望がある交差点についても設置の検討を行っている。
- ・現時点では、アイシグナルなどではなく、多くの視覚障害の方が利用しやすい、また設置の要望が多い従来型の音響式信号機及び高度化PICSの整備を進めていく予定である。
- ・歩行時間が延長できる信号機、高齢者等感応押ボタンについて、シグナルエイドで操作いただくことができる信号機となっている。県下で現在90交差点に整備しており、現在も整備を進めている。
- ・高齢者等感応押ボタンは重点整備地区にある信号機を優先的に整備している。

### 島田委員

- ・高度化PICSは今の時代に沿った機器であると思うが、視覚障害者がスマートフォンを使って操作をするのは、かなり至難の業で経験のいることであると思っている。すべての視覚障害者がスマートフォンを使えるというものではないので、それがどんどん普及するのはつらい。

### 朝山委員（代理）

- ・PICSについては、従来型のスピーカーから誘導が鳴るピヨピヨカッコウと併用して設置しようと考えている。
- ・PICSの効用としては、夜間は周辺住民の方が24時間ピヨピヨカッコウを鳴らすのはちょっとと言われるご意見があるところに、携帯のアプリを利用したら24時間その情報が入るとい

ところにある。

#### 元山委員

- ・医療業界では色覚に課題がある方がたくさんいらっしゃるのには遺伝学的には常識である。日常生活の中で当たり前のように生活しているが、赤緑というのが二大色覚の欠点であり、アイシグナルに表示される青の丸と赤の四角がよく分からなくなる。

#### 三星会長

- ・色覚異常は 100%同じパターンではなく、色々あるのでまだまだ不十分である。信号機は長年使っており、変更することは難しいが警察でも認識していただきたい。

#### ③その他

##### 【意見】

#### 川嶋委員（代理）

- ・本協議会について、本日は対面で開催されたがWEB との併用についても検討いただきたい。
- ・コロナを期に移動にコストをかけないという社会にすでに変化しており、そういった社会に対応すべく会社のありようも変わってきている。

#### 三星会長

- ・社会の変容とは言うが、合意形成というのはリモートでは難しいというのが分かってきた。
- ・WEB との併用については事務局も異論はないと思う。